

ルカによる福音書6章

【我らの生き方】

6:20 さて、イエスは目を上げ弟子たちを見て言われた。「貧しい人々は、幸いである、神の国はあなたがたのものである。

6:21 今飢えている人々は、幸いである、あなたがたは満たされる。今泣いている人々は、幸いである、あなたがたは笑うようになる。

6:22 人々に憎まれるとき、また、人の子のために追い出され、ののしられ、汚名を着せられるとき、あなたがたは幸いである。

6:23 その日には、喜び踊りなさい。天には大きな報いがある。この人々の先祖も、預言者たちに同じことをしたのである。

6:24 しかし、富んでいるあなたがたは、不幸である、あなたがたはもう慰めを受けている。

6:25 今満腹している人々、あなたがたは、不幸である、あなたがたは飢えるようになる。

今笑っている人々は、不幸である、あなたがたは悲しみ泣くようになる。

6:26 すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である。この人々の先祖も、偽預言者たちに同じことをしたのである。」

6:27 「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。

6:28 悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。

6:29 あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。

6:30 求める者には、だれにでも与えなさい。

あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。

6:31 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

6:32 自分を愛してくれる人を愛したところで、あなたがたにどんな恵みがあるうか。

罪人でも、愛してくれる人を愛している。

6:33 また、自分によくしてくれる人に善いことをしたところで、どんな恵みがあるうか。罪人でも同じことをしている。

6:34 返してもらおうことを当てにして貸したところで、どんな恵みがあるうか。罪人さえ、同じものを返してもらおうとして、罪人に貸すのである。

6:35 しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。

6:36 あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

ルカによる福音書のイエス様のメッセージはマタイによる福音書のものとはちょっと違ってきます。より具体的、より泥臭さを感じるものになっています。

ある意味、わかりやすいとも言えると思います。特徴的なことだけをピックアップしてみたいと思います。

1) 逆転の発想

イエス様はここで

「貧しい人々は、幸いである」

「今飢えている人々は、幸いである」

「今泣いている人々は、幸いである」

と語り

「富んでいるあなたがたは、不幸である」

「今満腹している人々、あなたがたは、不幸である」

「すべての人にほめられるとき、あなたがたは不幸である」

と語りました。

これは一般論からすれば世の中の評価と逆転しています

でも、イエス様は弟子たちに対して、あえてこういう内容を伝えています。

考えてみれば、貧しい人、飢えている人、泣いている人というのは今すぐにでも誰かからの助け、恵み、憐れみ、優しさが必要な人達です。

つまり、自分の身体的な必要も、精神的な必要も、霊的な必要も体験的にわかっている人たちでもあります。

そして、助けられたときの嬉しさ、ありがたさを心から感謝できる、あるいは心から感じられる人でもあると思います。

人との関わりの中では必ずしも、すぐにその幸いを味わえないかもしれません。でも、神との関わりの中では、神は必ず、それらの人の訴えに耳を傾けそれらの悩みを知ってくださいます。

そして、様々なルートを通して助けの手を具体的に届けてくださいます。

むしろ、今、富んでいる人、満腹している人、人からもてはやされている人たちは自分の生き方に自信を持ち、自己満足やさらに上を目指して「もっと、もっと」という世界の中にいますので、「神の助けを必要と感じていない」あるいは神の助けを「少し利用できたら、それで十分」と考えやすいのです。

そこにいわゆる落とし穴があります。

実は、教会の長い間の歴史の中で、小さな教会を支え続けてきたのは名前もあまり知られていない、貧しく、飢えを知っている、涙を流すことの多かった人たちの手によるものが大きいのです。

大きな聖堂は国のお金やお金持ちの寄付で建てられたかもしれません。

でも、教会、主を信頼するものたちの交わりとしての群れの継続はどちらかといえば、無名の人たちによって継続してきたと言えると思います。

今、私たちは、どちらでもない状況にいるかもしれませんが、でも大事なことは「神に助けられてここまでこれた」し「神の恵みによっていのちと交流が支えられてきた」ことを感謝する心を礼拝のたびごとに確認することだと思います。

2) 親切・善行・憐れみ深い生活こそ

そして、イエス様は、より具体的に、神の前に幸いな人の生き様を示しています。

6:27 「しかし、わたしの言葉を聞いているあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたを憎む者に親切にいなさい。

6:28 悪口を言う者に祝福を祈り、あなたがたを侮辱する者のために祈りなさい。

6:29 あなたの頬を打つ者には、もう一方の頬をも向けなさい。上着を奪い取る者には、下着をも拒んではならない。

6:30 求める者には、だれにでも与えなさい。あなたの持ち物を奪う者から取り返そうとしてはならない。

6:31 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

私たちはどうしても、我慢できず、悪口を言われると言い返す習慣とか卑屈になって、その人を心の中で呪う習慣を身に着けてしまいがちです。

改めなければなりません。

6:31 人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい。

は「黄金律」とも言われています。

これも、やはり、私たちは、まず、私にやってくれたらあなたにお返しします、という発想をもちやすいのです。

3) 根拠

6:35 しかし、あなたがたは敵を愛しなさい。
人に善いことをし、何も当てにしないで貸しなさい。

そうすれば、たくさんの報いがあり、いと高き方の子となる。いと高き方は、恩を知らない者にも悪人にも、情け深いからである。

6:36 あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。」

なぜ、イエス様が弟子たちにこういう生き方を望まれたのかといえばそれはここにあるように「父なる神が憐れみ深いお方だから」というのが根本的な理由です。

私たちはこの憐れみ深い父なる神に愛され、救われ、守られ、満たされてここまで来ました。全て、神さまの憐れみ深さのおかげです。

そして、神さまはそういう祝福を受けた私たちに、神さまと同じ方向を向き、神さまと同じ思いで社会の中に生きるようにと願っておられるのです。クリスチャンになったら憐れみ深い人になれるかどうか、それはわかりません。

でも、神さまに取り扱われ、イエス様に愛されていることがわかってくると神さまからの私たちへの思いや願いがわかってきて、それは神さまのご性質に似たものとして生きることだと理解できるようになるのです。

変えてくださるのは神さまです。私たちが必死に頑張っても結局、報いを求め、評価を求め、やってあげたでしょ、と言い続けるような自己称賛をしながら生きる様になってしまいがちです。

神さまによって、御言葉を心に蓄えながら、気づいたら、神さまのご性格に似たものにされていたという感じがちょうどよいのかもしれない。

つまり、聖人と言われた人たちは、自分がそう呼ばれることなど、夢にも思わず、丁寧にその日、その日を生きていたのだと思います。

パウロはそのことをこう語りました。

「わたしたちは皆、顔の覆いを除かれて、鏡のように主の栄光を映し出ししながら、栄光から栄光へと、主と同じ姿に造りかえられていきます。これは主の霊の働きによることです。」

(コリントの信徒への手紙第二 3章 18節)

思うに、振り返ってみれば、イエス様の言葉に触れ、イエス様の愛に触れてから、きっと「変えられたな」と思いあたることはきっとあると思います。それに気づくことがなくても、神さまはあなたの地味な日常の中に、神さまならではの愛や思いやりの心を育てあなたをキリストに似たものとして育ててくださいます。

そして、おそらく、私たちが地上の人生を終わった時、神さまは私たちに「不合格」という烙印を押すことはないと思います。

そもそも、イエス様に守られての人生だったわけですから。

私たちが変わったか、変わらなかったかが、最終テストではないのです。

十字架はすべての人に合格点を与えてくれました。あとは、一日一日の生き方をどう過ごしたか、それは今の人生を豊かにするための大事な日々なのです。

聖餐式と一緒にできないことは本当に残念なことです。どうぞ、こういう映像を見ながらイエス様との聖餐を意識しながら一緒に過ごしてください。

<https://youtu.be/xytYPDbrOk4U>

3月生まれの方さま、お誕生日おめでとうございます。祝福が豊かにありますように、心からお祈りします。

MACF 礼拝映像はこちらです。

<https://youtu.be/xtUnzoRxdu8>